

株式会社京都産業振興センター

1. 団体の概要(令和7年4月1日現在)

代表者(職・名)	代表取締役社長 山本 達夫				
所在地	京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1				
電話番号	075-762-2633		設立年月日	平成5年4月27日	
ホームページアドレス	https://www.miyakomesse.jp/				
基本財産(又は資本金)(千円)	90,000	市出資・出捐金(千円)	54,000	市出資割合(%)	60.0
所管部局 (局・室・電話番号)	産業観光局クリエイティブ産業振興室 075-222-3337				
事業目的	京都市勸業館の管理運営、展示会、見本市等の企画開催及び誘致ほか				
業務内容	(1) 京都市勸業館の管理及び運営 (2) 京都伝統産業ミュージアムの管理及び運営 (3) 展示会、見本市等の企画開催及び誘致				

(参考①) 役職員の年齢構成

(単位:人)

	役員		職員		平均年齢 (歳)
	常勤役員	非常勤役員	常勤職員※	非常勤職員	
10～20歳代	0	0	3	5	50
30歳代	0	0	3	0	
40歳代	0	0	7	3	
50歳代	0	5	6	4	
60歳代～	1	4	7	5	
合計	1	9	26	17	

※うち京都市からの派遣職員は0人

(参考②) 積立金、不動産の概要

基金、積立金等(退職引当金は除く)				
	主な基金、積立金名	想定される主な用途	期末残高	
	—	—	—	百万円
	—	—	—	百万円
土地、建築物の保有状況				
	主な不動産の種類、場所	想定される主な用途	敷地・延床面積	
	—	—	—	m ²
	—	—	—	m ²

(参考③)京都市の政策と団体活動の関連性

関連する本市の行政計画等とその方向性	
計画名	①第3期京都市伝統産業活性化推進計画 ②新京都戦略 ①https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/cmsfiles/contents/0000217/217005/dai3kikeikaku.pdf ②https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000339369.html
概要	①京都市基本計画の分野別計画の1つであり、伝統産業の活性化の推進の指針となる計画 ②令和9年度までに取り組む政策や、政策を推進するためのしごとの仕方改革、財政・組織体制の今後の方針を示すもの
計画における記載	①京都市伝統産業活性化推進計画 第4章 活性化に向けた取組 基本的施策5「活性化拠点施設等の機能の充実」 P.31 【主な取組事例集】 ○京都伝統産業ふれあい館(現・京都伝統産業ミュージアム)の活性化 本市の伝統産業製品を体系的に展示するこれまでの普及・啓発機能に加えて、ふれあい館が核となって業界の活性化につなげるため、交流機能の強化、販売促進機能の充実を図るとともに、施設の魅力向上のため、展示内容を刷新するなど、リニューアルを検討・推進する。 ②新京都戦略 ＜政策集＞P.3 1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」 (4) 市民生活と「観光」の両立 ⑨ 国との連携による国立京都国際会館の多目的ホールの拡張整備【R8・R9】、歴史的建造物等のユニークベニューとしての活用など、京都の強みを活かしたMICE誘致の強化と市民や学生、研究者、企業等との交ざり合いや学びの場の創出【R7】
上記計画に関連する団体の事業や取組	
	京都伝統産業ミュージアムの管理及び運営 京都市勧業館の管理及び運営

2. 財政面の概要

(単位:千円)

主要財務数値	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	予算
経常収益	621,200	714,929	734,800	716,221	745,100		776,800
経常費用	671,500	697,822	769,300	709,591	773,900		761,800
経常利益	-50,300	17,107	-34,500	6,630	-28,800		15,000
資産合計	-	741,412	-	757,188	-		-
負債合計	-	280,161	-	299,117	-		-
純資産合計	-	461,251	-	458,071	-		-
累積損益額	-	371,251	-	368,071	-		-

(参考④) 財政指標

(単位:%)

			令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算(※)	
自立性	市補助金割合	市補助金収入 経常収益	0.0	0.0		小さいほど 自立性が高い
安定性	自己資金率	純資産合計 資産合計	62.2	60.5		大きいほど 安定性が高い
収益性	売上高経常利益率	経常収益－経常費用 経常収益	2.4	0.9		大きいほど 収益性が高い
	総資産経常利益率	経常収益－経常費用 資産合計	2.3	0.9		大きいほど 収益性が高い

(参考⑤) 京都市からの補助金等

(単位:千円)

		令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算(※)	令和7年度 予算
補助金	京都市中小企業等再起支援補助金	-	-		0
	京都市中小企業等再起支援補助金「応援金」	-	-		0
	京都市中小企業等総合支援補助金	100	-		0
	京都市中小企業等物価高騰対策支援金	50	-		0
	京都市中小企業等物価高騰対策支援金(追加支援)	-	30		0
	小計	150	30	0	0
委託料	協定に基づく管理運営費〔指定管理(公募、利用料金制)〕	-	-		0
	京都市伝統産業品販売促進支援事業	-	-		0
	京都市伝統産業未来構築事業	3,000	4,500		7,000
	京都市伝統産業製品販売機会創出事業	12,422	-		0
	京ものユースコンペティション企画・運営業務	1,000	1,000		0
	京都伝統産業ミュージアム受付カウンター制作業務	-	4,177		0
	小計	16,422	9,677	0	7,000
貸付金	—	-	-		-
	小計	0	0	0	0
その他	—	-	-		-
	小計	0	0	0	0

3. 目標及び実績

(1) 業務面

目標1 「京都市勧業館の利用促進」	
令和6年度の目標	未だコロナ禍からの完全回復に至っていないが、アフターコロナにおける利用顧客層の変化を見極めながら、新規顧客の獲得、繰り返し利用いただく顧客の定着（継続利用顧客の獲得）により、稼働率の向上を目指す。 【新規顧客の獲得】 広報、宣伝を強化する。具体的には、ホームページにおける開催事例の紹介やSNS投稿など、施設のPRを強化して新規顧客層への周知を図る。 首都圏等において、伝統産業ミュージアムと併せての営業を行うことで、施設の付加価値をPRし、顧客の裾野を広げる。 コンベンションビューローとの連携強化、ロームシアター、市美術館との連携強化により、岡崎エリアにおける大規模イベントの受け皿としての機能強化に取り組む。 【継続利用顧客の獲得】 施設利用前及び利用期間中における主催者等とのコミュニケーションを強化し、伴走型の運営を行うとともに、利用後の満足度調査アンケートの実施により要望等を把握し、速やかに対応することで今後の継続利用につなげる。
令和6年度の取組結果（※）	
令和7年度の目標	令和7年度から新しい指定管理協定がスタートする。以下の取組により、稼働率の向上を目指す。 【新規顧客の獲得】 これまでと同様にコンベンションビューロー等関係機関と連携して事業ネットワークを拡大し、成約可能性のある新規ターゲットへの企画提案型営業を行うとともに、可能な限り機会損失を減らすために、開催日の折衝、調整を行い成約につなげる。 【継続利用顧客の獲得】 施設利用前及び利用期間中における主催者等とのコミュニケーションを強化し、伴走型の運営を継続するとともに、主催者の要望に一括して対応するワンストップサービスの充実を図る。 また、利用後の満足度調査アンケートも継続して実施することにより要望等を把握し、速やかに対応することで今後の継続利用につなげる。

指標	展示場の面積稼働率						(単位：%)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績（※）	目標
	52.00	50.08	53.00	46.03	50.00		50.00

目標2 「京都伝統産業ミュージアムの認知度向上」	
令和6年度の目標	京都市と緊密な連携のもと、インバウンド向けの館内案内の強化、職人実演や企画展の充実、常設展示場の定期的な入替を行うとともに、京都市産業技術研究所等と連携し、京都の伝統工芸品の新しい展開事例の紹介を行う。また、ギャラリーや企画展示室を活用した展示や実演、販売会を開催して、職人作家と消費者、観光客をつなげる等、ミュージアムの機能充実を図り、施設の魅力を高めるとともに、岡崎地域の周辺施設と連携を行うことで、来館者の増加を目指す。 併せて、SNSを含めたメディア戦略の強化、国内外の雑誌への情報提供、さらにはホテル等への営業活動、観光ガイドへの情報発信など、これまで以上に認知度の向上に力を入れ取り組んでいく。特に旅行会社との連携を強化し、商機を逃さないように情報発信に努める。
令和6年度 の取組結果 (※)	
令和7年度の目標	魅力ある展示・企画事業の展開とリピーターや口コミによる来館者増に向けた以下の取組を行う。 ①来館者に伝統産業の魅力と京都の職人・作家の技術の高さを知っていただけるよう伝統産業関係団体等の協力を得て、高品質の工芸品の展示に努める。 ②来館者自身に伝統産業ミュージアムの魅力を発信していただけるよう展示やイベントの満足度を高めるとともに、展示物等の写真撮影を原則フリーとし、背景等を工夫した撮影ポイントの増設等、SNS投稿を積極的に後押しする取組を進める。

指標	「京都伝統産業ミュージアム来館者数」						(単位:人)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
	170,000	117,371	55,000	81,534* (149,465)	40,000* (150,000)		50,000* (170,000)

*有料エリアへの来館者数。ただし、令和5年度実績については、観覧料設定前の来館者数を含む。()内は無料エリアを含む来館者数

(2) 財務面

目標1 「京都市勧業館みやこめっせ事業における収入の確保」	
令和6年度の目標	未だコロナ禍からの完全回復に至っていないことに加え、光熱水費、施設負担金の経費増により、財務面では厳しい状況が続くと想定されるが、展示場の運営については、単なる貸館業務に留まるのではなく、積み重ねたノウハウを駆使して利用者に寄り添い、催事が成功裡に終わるようサポートすることで、稼働率を向上させ、利用料収入の増加を目指す。 また、展示場の空いている期間を利用して自主企画事業等を実施し、来館者の増加につなげるとともに、展示場で開催される催事の来場者を京都伝統産業ミュージアムに誘導することで、観覧料及びショップの売上増を目指す。
令和6年度の取組結果(※)	
令和7年度の目標	展示場の運営については、第一に、稼働率を向上させることで施設利用料収入の増を目指す。第二に、利用者に寄り添い、利用者の要望にあわせたワンストップサービスを提供することでサービス収入の増を図る。第三に、展示場の空いている期間を利用して自主企画事業等を実施し、事業収入を確保する。 また、展示場で開催される催事の来場者を京都伝統産業ミュージアムに誘導することで、観覧料及びショップの売上増を目指す。

指標	施設利用料収入						(単位：千円)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標
	471,000	509,215	522,700	510,922	511,300		537,700

目標2 「非外郭団体化に向けた取組」	
令和6年度の目標	指定管理協定における京都市への納付金の増加、電気代の大幅な増加等によりかなり厳しい状況が想定されるが、利用料収入を増加させるなど、財務改善に取り組み、企業価値の更なる向上を目指す。
令和6年度の取組結果(※)	
令和7年度の目標	令和7年度から新しい指定管理協定がスタートする。 利用料収入を増加させる等、引き続き財務改善に取り組み、単年度黒字を目指す。京都市をはじめ安定株主に対し、確実に配当を行うことで企業価値の更なる向上を目指す。

指標	「税引前当期純利益」						(単位：千円)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標
	-	17,107	△ 34,500 以上 (赤字幅の 縮小)	2,400	△ 28,800 以上 (赤字幅 の縮小)		15,000

(3) 組織面

目標 「持続可能な経営のための組織強化」	
令和6年度の目標	社員が働きやすい環境づくりを目指すとともに、引き続き防災、防犯、救急等の効果的な研修を実施し、社員のスキルアップを図ることで、利用者の期待に応える。
令和6年度の取組結果(※)	
令和7年度の目標	社員が働きやすい環境づくりを目指すとともに、引き続き効果的な研修を実施し、社員のスキルアップを図る。また、スキルアップをサポートする仕組みを整える。

指標	「効果的な研修の実施」						(単位：回)
目標と実績	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度
	目標	実績	目標	実績*	目標	実績(※)	目標
	2	2	2	3	2		2

*全社員対象の研修のみをカウント

4. 令和6年度の経営評価（令和5年度の経営状況に対する評価）

(1) 所管局による評価

財務面	コロナ禍も落ち着き、展示場利用は回復傾向にあるものの、コロナの影響が未だ強かった4月に学会などの大型催事が開催されなかったこと等から、目標の稼働率には届かず、昨年度より4.05%減少することとなった。また、昨今の光熱費や物価高騰等による経費増加の影響がある中、目標の施設利用料収入には届かなかったものの、主催者の様々なニーズを指定管理者が窓口となって調整するワンストップサービスの実施など、指定管理者独自の取組等による効果もあり、昨年度を上回る施設利用料収入を確保することができた。 当初予算では大幅な赤字を計上していた税引前当期純利益についても、最終的には黒字決算になったことは評価できる。 今後は、稼働率向上に向けての取組を積極的に進めることで、施設利用料収入の更なる増加を図るとともに、京都伝統産業ミュージアムにおいても、積極的に来館者増加に向けた取組を進めることで、観覧料収入及びミュージアムショップ売上等の増加を図り、安定した経営に向けて取り組んでいただきたい。
-----	---

事業面	上記のとおり、展示場については、昨年度に比べて稼働率が減少していることから、今後は、これまで利用いただいている継続顧客への丁寧なサポートはもとより、新規顧客獲得のため、これまで以上に積極的な営業活動、広報・宣伝など、取組の幅を広げていく必要がある。 京都伝統産業ミュージアムについては、令和5年9月の観覧料の設定以降、新たな展示品の設置等による展示の充実、職人実演の毎日実施等による機能の向上など、伝統産業振興に資する取組を積極的に実施していることは評価できる。 今後も引き続き、伝統産業振興に資する取組を継続していただくとともに、リピーターを含めた来館者の増加につながる取組を積極的に実施していただきたい。
-----	---

(2) 外郭団体総合調整会議による評価

京都最大級のイベント会場である「みやこめっせ（勸業館）」を適切に管理運営し、昨年度を上回る利用料収入を確保する等、その運営努力は評価できる。ロームシアター京都や京セラ美術館等の周辺施設との連携など、岡崎地域の振興・発展に寄与する、施設の魅力の更なる向上を期待したい。 また、当団体の経営理念である、京都産業の振興を推進するため、施設運営によらない新たなソフト事業についても、意欲的に企画・実施いただきたい。 なお、自主事業による収益向上や、業務のデジタル化等による経費削減など、自律化（非外郭団体化）に向けた収支改善の取組にも、引き続き努めていただきたい。
